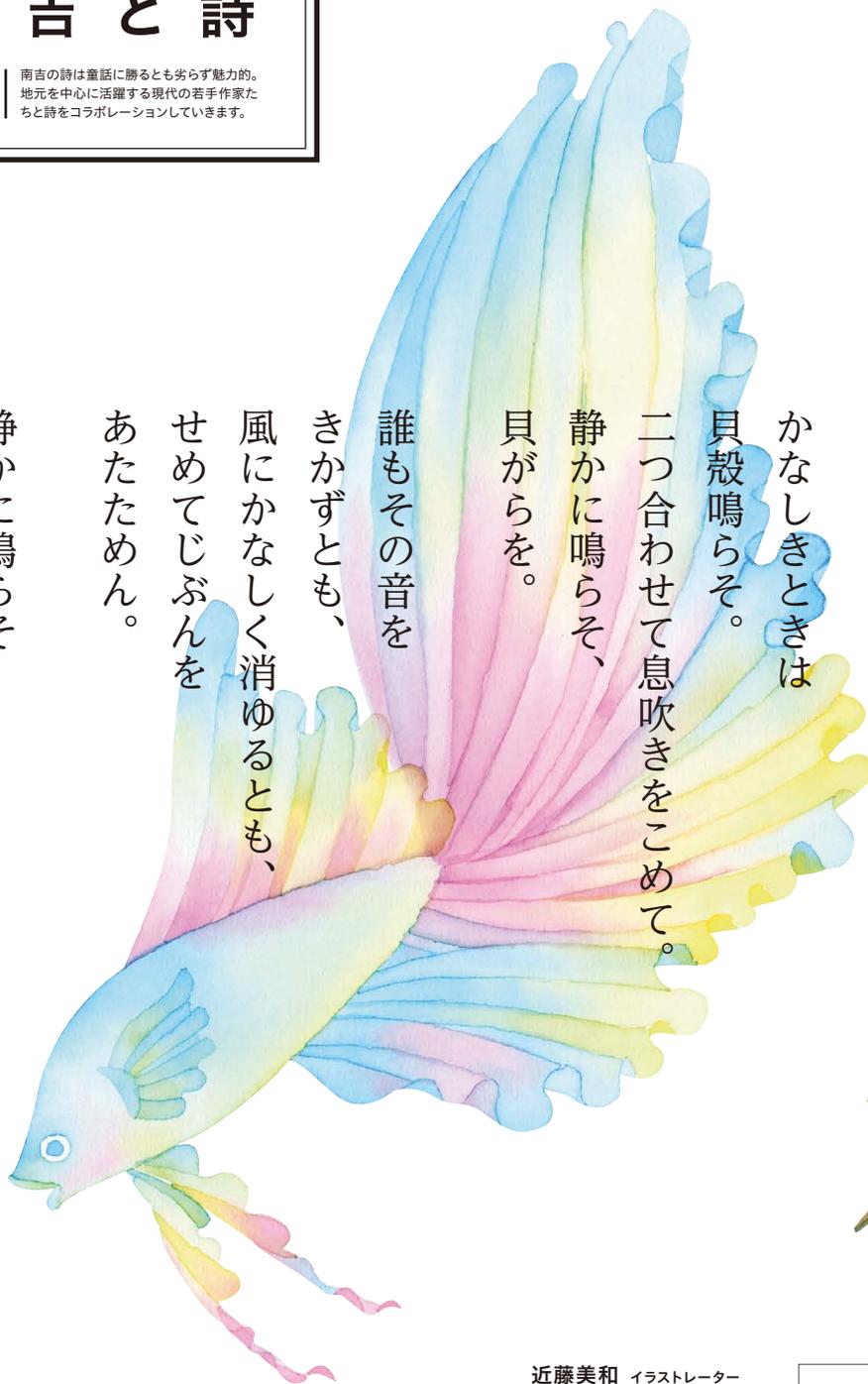
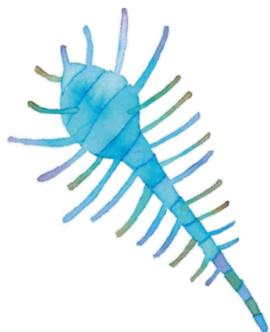




新美南吉と詩

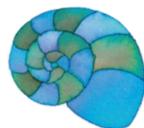
Nankichi × Step

南吉の詩は童話に勝るとも劣らず魅力的。
地元を中心に活躍する現代の若手作家たちと詩をコラボレーションしていきます。



貝殻

かなしきときは
貝殻鳴らそ。
二つ合わせて息吹きをこめて。
静かに鳴らそ、
貝がらを。
誰もその音を
きかずとも、
風になさしく消ゆるとも、
せめてじぶんを
あたためん。
静かに鳴らそ
貝殻を。



近藤美和 イラストレーター

美しく調和のある世界を鮮やかな色彩で描きます。痛み多い世界に、潤いの一
滴となれば幸いです。名古屋イラスト
レーターズクラブ会員。
<http://www.miwa-design.jp>

絵について

かなしみを打ち消すのではなく、かなしみから逃
れるのでもない。水に漂う魚のようにかなしみに
身を委ねながら、静かに自分と向き合う。その孤
独がかなしみを少しづつ癒すのかもしれない。

新美南吉



にいみなんさき
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半
田町(現・半田市)に生まれる。幼く
して母を亡くし、養子に出されるな
ど寂しい子ども時代を送る。旧制半
田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を
契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を
得る。昭和18年、結核のため29才
で世を去る。

解説

詩を作る、という行為自体が、かなしみと向
き合う一つのかたちであるが、この作品で
は、作者は、貝殻を二つ合わせ、それを静か
に鳴らすことによって、内なるかなしみに耐
え、心を癒そうとする。

「貝殻」は、その背景に海の風景をイメージ
させる。その貝殻が、かなしみを抱えた人の
息吹を受けて、かすかな音を生む。

何百という南吉の詩から、誕生の地の半田
市で、最初の文学碑としてこの「貝殻」が選
ばれたのは、この作品が、南吉の人間として

の一面をよく表している、と考えられたから
だ、と思う。詩に、はかなく美しい世界を実
現したい、と考えていた南吉の願いに、「貝
殻」はよく応えている作品だ、といえよう。

前新美南吉記念館館長

矢口 栄 さん

解説者

半田市、知多市、東浦町の小中学校勤務を経て
'04年から'11年まで新美南吉記念館館長を勤め
る。著書「南吉の詩が語る世界」(一粒社出版部)
「子どもたちに贈りたい詩」(教育出版センター)
「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)ほか。

おしらせ

ことばの杜朗読会 「読み語り～南吉と出逢う」

【日時】7/27(土)13:00～15:45(予定)
【場所】半田市福祉文化会館(雁宿ホール)大ホール
【料金】自由席 大人500円、小中学生200円、未就学児不可
新美南吉生誕祭開幕初日に開かれる朗読会。元NHKア
ナウンサーのグループ、ことばの杜と市内全小学校から
児童らが出演。チェロの演奏も。

市民音楽祭

【日時】7/28(日)13:30開演
【場所】半田市福祉文化会館(雁宿ホール)大ホール
【料金】無料(要整理券)
南吉にちなんだ歌の合唱と組曲「はんだ」などの演奏。